

# 高齢者向け住宅に関する自立支援と 認知症高齢者の心身機能維持との関係性

パナホーム株式会社 エイジフリー事業推進部

## (1) パナホーム×三浦研究室(大阪市立大学)共同研究プロジェクトの背景と目的

- ・三浦研究室(大阪市立大学)は、環境行動理論に基づく高齢者施設や住宅の計画・設計・研究を行っています。三浦教授は、高齢者向け住宅はすまい手が主役であり、「介護される場」から「生活の場」へ変えて行きたいとお考えをお持ちでした。さらに研究室には、ハード(空間)とソフト(運営)のどちらにも造詣の深い、理学療法士の研究員の方が在籍しておられました。
- ・一方で、当社では、これまでに建てさせていただいた建物での実際の暮らしを知りたい、“その人らしい生活”を送るためには、どのようなハード、ソフトが必要なのかを知りたいと考えていました。サ高住に併設したデイサービスで自立支援のためのアクティビティが行われていますが、どの程度の効果があがっているのかという問題意識がありました。高齢者住宅には、介護事業が成り立つことに集中し、利益を追求した過度なサービス提供になるケースがあります。一律な介助、過介助が自立の妨げになるのではとの懸念がありました。
- ・両者の考えが一致し、環境(ハード、ソフト)の違いによって、入居者の生活動作にどのような影響を与えるのかを探ることを目的とする、共同研究を行いました。

## (2) 研究の方法

- ・高齢者の「できること」は、入居している施設、介護度、認知症度、個人の特性によって異なります。そのため、主に当社が建てさせていただいた15件の施設入居者125人を対象に、手段的日常生活動作(IADL)における「できていること」と「していることの」の差と、施設におけるハード・ソフトの違いの関連性を調査しました。
- ・例えば、洗濯の能力について、ソックス・靴下のゆすぎなど簡単な選択の能力がある場合は能力1点と評価します。洗濯の実施状況について、全て他人にやってもらっている場合は実施状況0点と評価します。この方の洗濯における「IADLの能力と実施状況の差」は、1点となります。



手段的日常生活動作(IADL)の評価尺度(例)

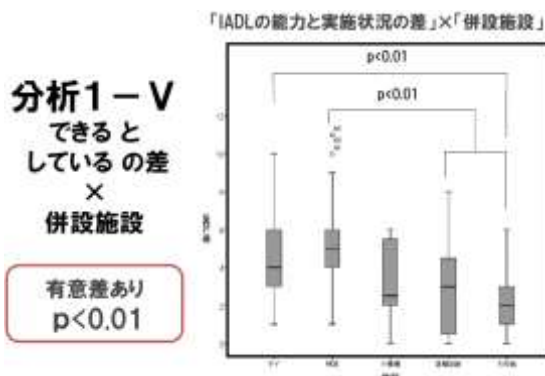
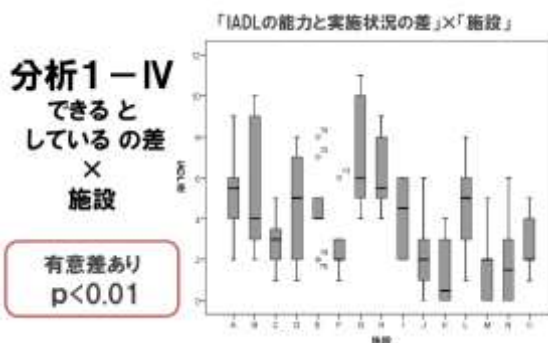
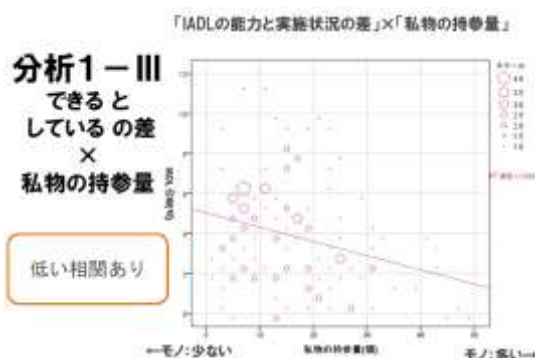
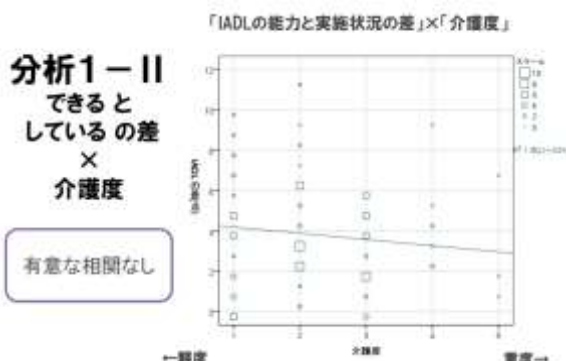
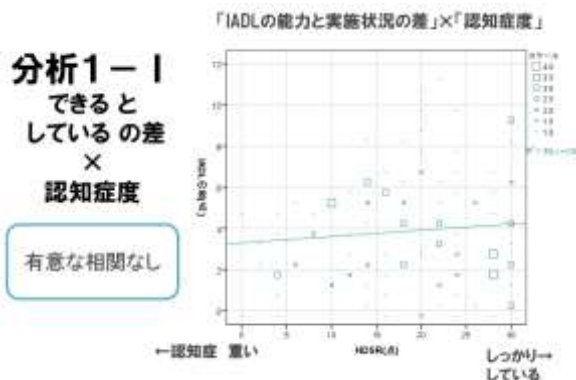
食事の準備		家事		洗濯	
適切な食事を自分で計画し準備し給仕する	3点	家事を一人でこなす、あるいは時に手助けを要する(例:重労働)	4点	自分の洗濯は完全に行う	2点
材料が供与されれば適切な食事を準備する	2点	皿洗いやベッドの支度などの日常的仕事はできる	3点	ソックス、下着のゆすぎなど簡単な洗濯をする	1点
準備された食事を温めて給仕する、あるいは食事を準備するが適切な食事内容を維持しない	1点	簡単な日常的仕事はできるが、妥当な清潔さの基準を保てない	2点	すべて他人にしてもらう	0点
食事の準備と給仕をしてもらう	0点	すべての家事に手助けを必要とする	1点		
		すべての家事にかかわらない	0点		



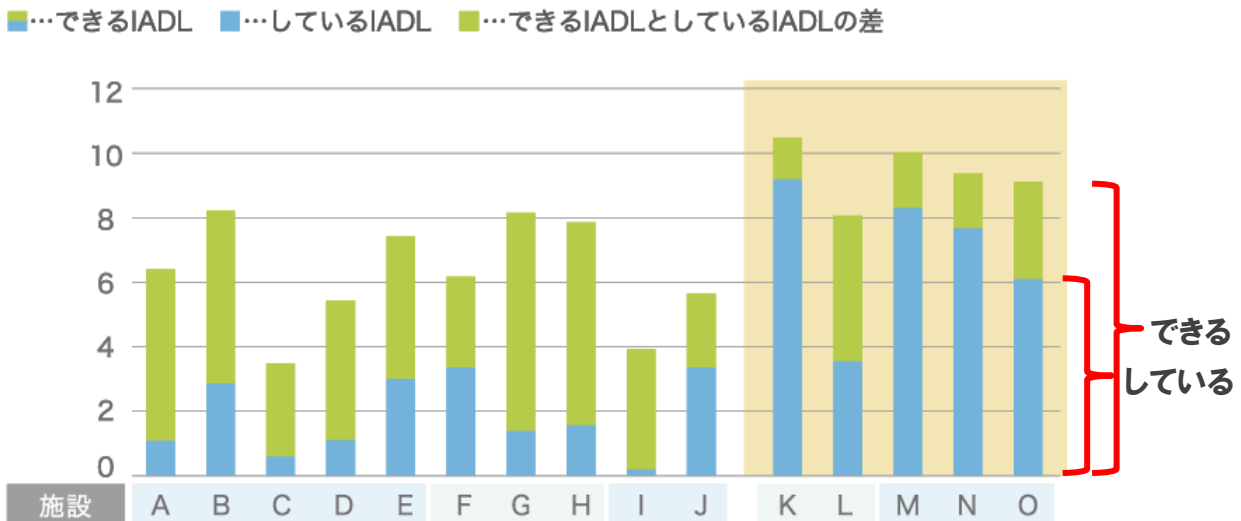
### (3) 調査結果の分析

#### 分析-1 本人の状況と施設の状況

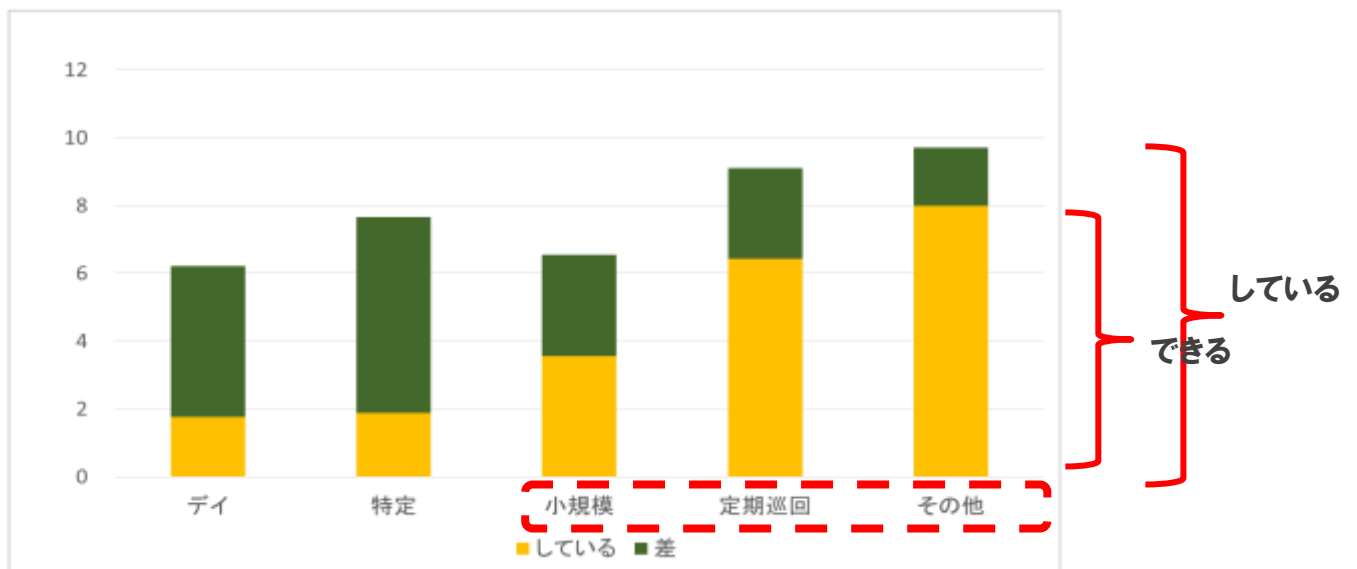
- ・ IADL 差 (IADL の能力と実施状況の差) と認知症度及び介護度との有効な相関性はありませんでした。
- ・ IADL 差と私物の持参量には、低いですが、相関性がありました。
- ・ IADL 差は施設により、有意差がありました。能力に応じて生活できているか否かは、本人の状態よりも、施設ごとの状況の影響が大きいと考えられます。下図の B、G、H、L のように、「できる」が同等の施設においても、「している」には差があります。
- ・ IADL 差は併設施設により、有意差がありました。能力に応じて生活できているか否かは、本人の状態よりも、併設介護サービスの影響が大きいと考えられます。下図のようにデイサービス併設の施設や特定施設よりも、小規模多機能型、定期巡回、その他のように、個別に対応しているサービスの方が、「できる」と差が小さいとの結果がでています。



## しているIADL と できるIADL の差 (施設別)



## しているIADL と できるIADL の差 (併設サービス別)

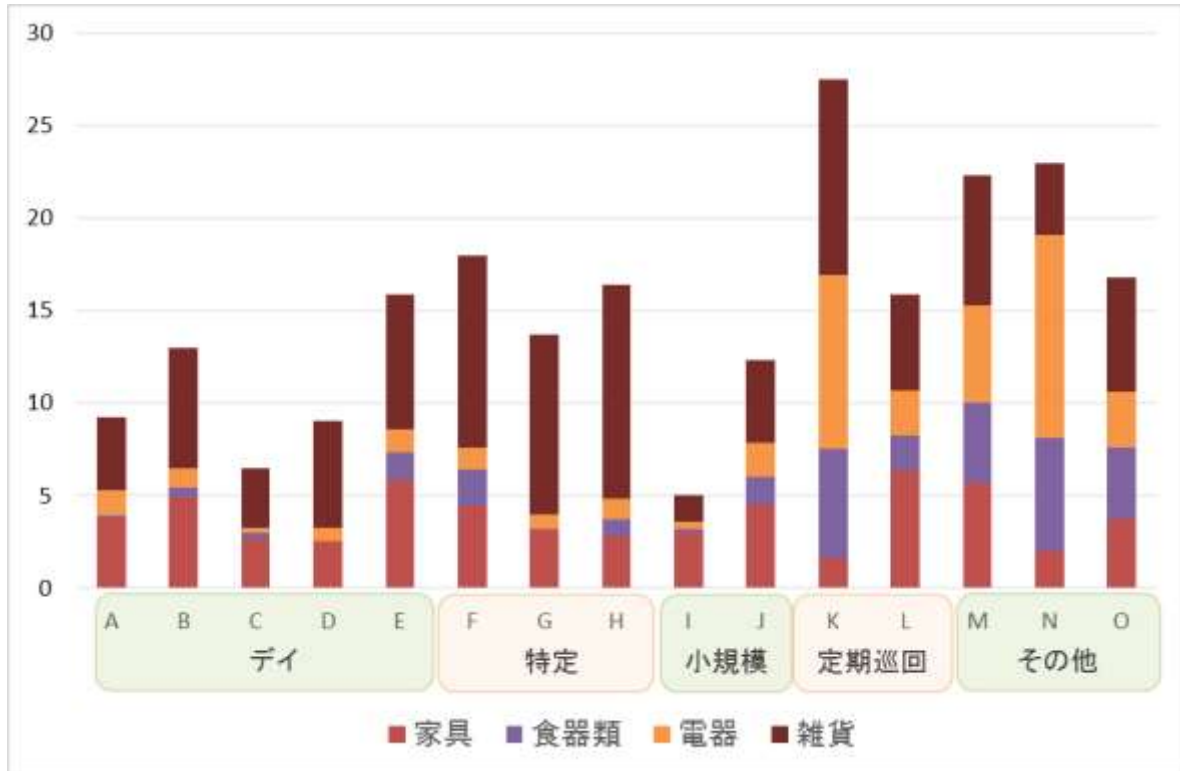


### 分析-2 私物の持参量

- 施設によって、私物をなんでも持ち込んでいいですよとしているところがありました。
- 概ねの入居者は家具を持ちこんでおられますが、雑貨や電気製品を持ち込んでおられる居室がありました。右写真のように電子レンジなどが置かれ、生活感のあるお部屋もありました。
- 居室の広さと持参量に低い相関性がありました。介護度の有意な相関はありませんでしたが、認知症度との低い相関性がありました。これは施設側が、認知症の見られる入居者の部屋にもものがあると危険だと判断ということがあるようです。施設と併設施設における有意差がありました。
- 私物持参量は、部屋の大きさ、本人の介護度や認知症度にはあまり左右されず、むしろ施設側の考え方によって左右されるということが分かりました。



分析2 私物の持参量



家具量 × 居室の広さ  
有意な相関なし

認知症度  
低い相関あり  
(0.376\*\*)

居室の広さ  
低い相関あり  
(0.344\*\*)

介護度  
有意な相関なし

# 私物の持参量

施設  
有意差あり  
 $p < 0.01$



併設施設  
有意差あり  
 $p < 0.01$

モノの持ち込みは、部屋の大きさ、本人の介護度や認知症度により左右されず、むしろ施設によって左右される

### 分析-3 入浴の関連動作

- ・入浴の関連動作に関する、IADL 差（IADL の能力と実施状況の差）と認知症度及び介護度との有意な相関性はありませんでした。
- ・浴室の場所(居室内か、居室外か)が、IADL 差に影響するかを調べましたが、有意差は認められませんでした。
- ・入浴時間を選択できるかどうかで、有意差がありました。自分で入浴の時間を決めると、入浴の関連動作も自分でやろうという気持ちになると考えられます。
- ・施設、併設施設での有意差がありました。
- ・15 件中 13 件が住居エリアにユニットバス（個浴：多くが介護対応バス）を設けているにも関わらず、6 件では全く利用されていませんでした。デイサービスなど併設施設の浴室を利用しているケースが大半でした。住居エリアの個浴を主に使っていたのは、併設施設が定期巡回や訪問介護のサービスを行っている施設でした。

### 分析3 入浴の関連動作



## 分析-4 トイレ動作

- ・トイレの場所が居室内か外かが、入浴の関連動作に関する IADL 差 (IADL の能力と実施状況の差) に影響するかを見たところ、トイレが居室外にある施設が、居室内にある施設に比べて IADL 差が小さいという結果になりました。これは、トイレが居室内にある施設 (G) について、能力と実施状況の差が際立って大きく、他の施設に比べて過介助であったことが要因と考えられます。この一事例を除くと、明確な差はみられませんでした。

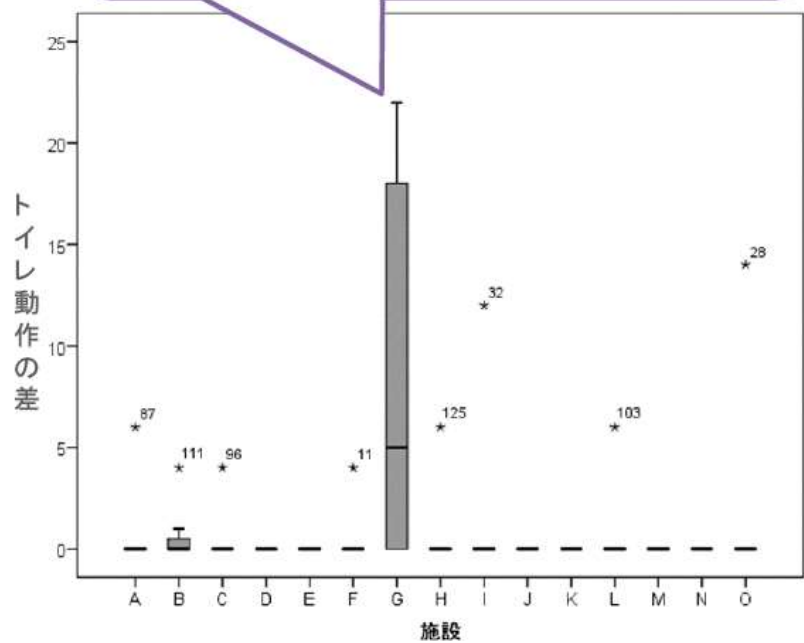
### 分析4 トイレ動作

# トイレ 動作

トイレの場所  
(居室内か外か)  
有意差あり  
 $p < 0.05$



トイレが居室内の施設Gで  
他施設に比べてトイレ動作が  
過介助であったことが要因



### 分析-5 食事の関連動作

- ・食事の関連動作における、IADL 差（IADL の能力と実施状況の差）と認知症度及び介護度との有意な相関性はありませんでした。
- ・食器類の量と家電の量との負の相関がありました。また、食事提供選択の可否、及び施設、併設施設との有意差がありました。
- ・高齢者向け住宅は 18 m<sup>2</sup>タイプが多いため、各居室にキッチンをつけることは難しいのですが、オープンな共有キッチンをつくることで、食事づくりに参加してもらえることを気にかけている施設があります。施設スタッフのみ出入りするキッチンしかない施設では、食事づくりに入居者が参加することもなくなります。

### 分析5 食事の関連動作





### 分析-6 洗濯の関連動作

- ・洗濯の関連動作における、IADL 差（IADL の能力と実施状況の差）と認知症度及び介護度との相関性はありませんでした。
- ・特に女性から、自分の下着は自分で洗いたいとの意見を伺いました。物干し場のない居室でも、ベッドの手すりなどに干している方が多くおられました。
- ・洗濯機をスタッフのみが操作するようにしている施設もありました。共用の洗濯機を、入居者が利用しやすいように配置している施設では、入居者自身で洗濯関連動作が行われていました。
- ・洗濯機の所有状況と同時に、物干し場の所有状況の有意差がありました。物干し場がリビングから見渡せる状況にあることが大事ということも確認できました。

### 分析6 洗濯関連動作

洗面所の場所  
(居室内か外か)  
有意差なし

洗濯機の  
所有状況  
有意差あり  
 $p < 0.05$

物干し場  
の所有状況  
有意差あり  
 $p < 0.05$

認知症度  
有意な相関なし

**洗濯**  
**関連動作**



介護度  
有意な相関なし

施設  
有意差あり  
 $p < 0.01$

併設施設  
有意差あり  
 $p < 0.01$

### 分析-7 家事・掃除など

- ・家事・掃除などの関連動作における、IADL 差（IADL の能力と実施状況の差）と認知症度及び介護度との相関性はありませんでした。
- ・部屋が広さ及び私物の持参量との相関性がありました。ある程度の部屋の広さがあり、自分で家事・掃除をしようとの意思になるようです。

### 分析7 家事・掃除など



居室の広さ  
低い相関あり  
-0.214\*

私物の持参量  
低い相関あり  
-0.299\*\*

認知症度  
有意な相関なし

**家事  
掃除など**

介護度  
有意な相関なし

掃除道具の有無  
有意差あり  
p<0.01

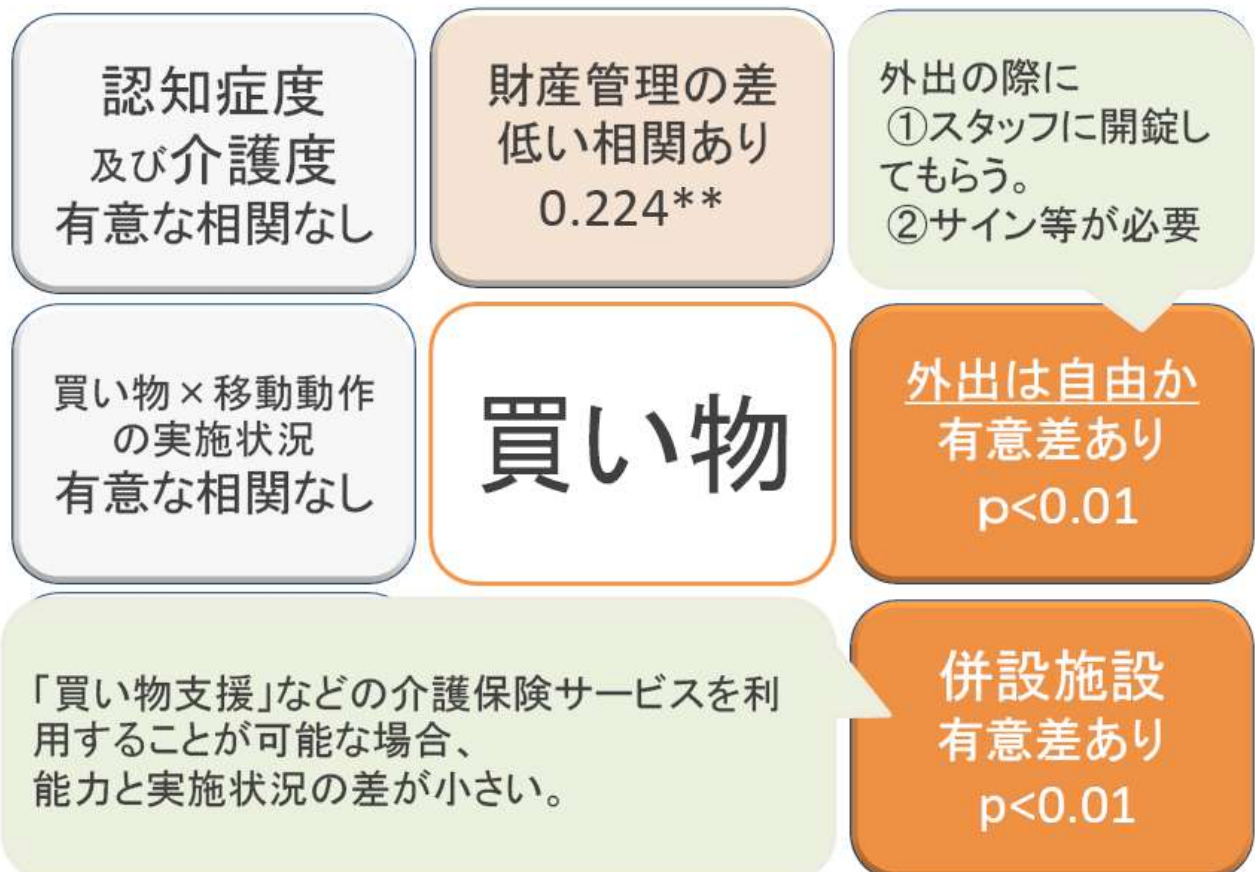
施設  
有意差あり  
p<0.01

併設施設  
有意差あり  
p<0.01

## 分析-8 買い物

- ・ 買物の関連動作における、IADL 差（IADL の能力と実施状況の差）と認知症度及び介護度との相関性はありませんでした。
- ・ 調査対象の施設は要介護の高齢者が主な入居者としているところであったため、買物は難しいかなと考えていましたが、実際には数件、自分で買物を行っている方がおられました。
- ・ 財産管理の差について、相関がありました。
- ・ 商業施設の有無との有意な相関はありませんでした。それよりも、外出が自由かに関して、有意差がありました。
- ・ 併設施設に関して有意差があり、「買い物支援」などの介護保険サービスを利用することが可能な場合、能力と実施状況の差が小さいということが分かりました。

### 分析8 買い物



(4) 研究のまとめ

・本研究は以下のようにまとめられます。

①本人の状況よりも、入居する住宅のハード・ソフトの違いに大きい影響を受ける。

⇒どの住宅を選ぶかで、入居後の生活の自立度がかわってしまう。

「できることをする」機会が異なってくる。

⇒個別ケアの重要性

②認知症度や介護度と「能力と実施状況の差」に有意な相関なし。

⇒重度であれば「できること」は減るが

重度かどうかと「できることと していることの差」は関連がない。

⇒ハードとソフトが整備されれば、重度の方も、その方らしい生活ができる。

③ハードが整備されていても、当初の目的に沿った活用がなされていない。

⇒ハードとソフトの両面からの工夫が重要。

⇒建築計画時に、生活の流れ、使い方を想定することが必要。



【質疑応答・意見交換】

Q: 施設により能力と実施状況の差の有意差が見られるとのことですが、施設の立地や、居室の広さ、サ高住か有料老人ホームかによる、傾向は見られたか？

A: 今回の研究では、調査対象施設が 15 件ということがあり、そこまでの結論を出せませんでした。サ高住と有料老人ホームは、同じ様な事業運営をしておられるところを選定しました。

Q: 調査対象の施設を、複数の事業者が運営しており、それが調査結果に影響を与えたということはないですか。

A: 調査対象の施設は、それぞれ異なる事業者により運営されているものでした。

C: 併設施設の無い施設において、自立している入居者が多いということはとても印象的で、我々が考えていることと合致しています。サ高住の併設施設は、サ高住とは別の事業者が運営し、地域の高齢者が利用できるようにすべきだと考えています。また、サ高住と有料老人ホームで同じ様な運営を行っているところを対象とされたとのことですが、自分はサ高住に住んでいる、あるいは有料老人ホームに住んでいるという意識の差が調査結果に影響しているかもしれません。

C: IADL 能力と実施状況の差と、認知症度、介護度に相関性が無いとのことですが、実は認知症度や介護度の軽度の人で、データの分散が大きいということがグラフから読み取られます。IADL 能力のある人に対してこのような仕掛けがあれば、自分で実施するようになるかもしれないというヒントが、分散に着目したデータ分析から、得られるかもしれません。

C: 施設で食事サービスを受けるよりも、デリバリーサービスを利用している人の自立度が高いかもしれません。単に支援するサービスではなく、生活をつくるサービス援助が必要と考えられます。

以上

(Q: 質問 A: 回答 C: コメント)